



写真左) 建物正面玄関

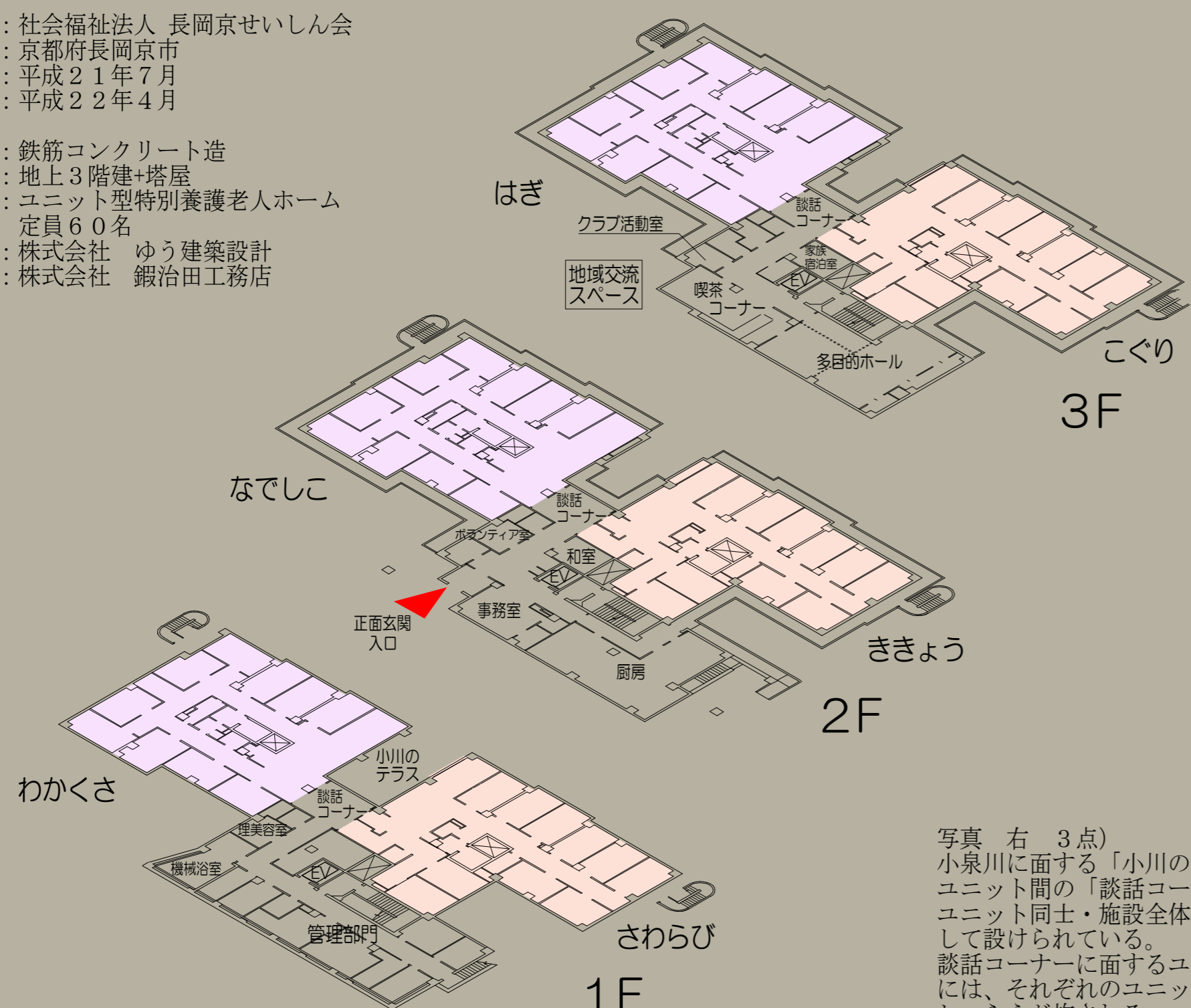
日本の伝統的住宅の玄関柱・さきめ格子をモチーフとした。玄関柱は杉丸太として高齢者が手を触れてもやさしいものとした。施設の雰囲気をなくしできるだけ住宅スケールに押さえるように工夫した。



写真右 2点) 敷地の西側を流れる小泉川の緩やかなカーブに沿って建物の外壁に凹凸をつけていった。建物の大きな外壁面が分節され、住宅地になじむような形状となった。

この老人ホームは10人が1単位(ユニット)で生活をしていくプランとなっており、1フロアに2ユニット合計6ユニット計画されている。ユニットは、共同生活室と呼ばれるリビングと、続き間となっている茶の間を中心に、ユニット外周を取り囲むように居室が並んでいる。
入居者それぞれの方の性格によって、人との交流を好まれたり、少し離れたところで静かに過ごすのを好まれたりする。そのような入居者の方の好みを尊重し、生活スタイルを継続していただけるように、プライベート～セミプライベート～セミパブリックの距離感を選択できるようなプランとなっている。様々な生活歴を持つ入居者の方が一緒に暮らすため、できるだけその方の生活歴を読み取り、生活習慣・人間関係が持続できることを目的にケアを推進されている。家族の方・ボランティアの方も訪問しやすい施設を目指され、そのようなしつらえ、住環境づくりに配慮し計画された。

- 事業主 : 社会福祉法人 長岡京せいしん会
- 所在地 : 京都市長岡京市
- 着工 : 平成21年7月
- 竣工 : 平成22年4月
- 建築概要
- 構造 : 鉄筋コンクリート造
- 階数 : 地上3階建+塔屋
- 用途 : ユニット型特別養護老人ホーム
- 定員 : 60名
- 設計監理 : 株式会社 ゆう建築設計
- 施工 : 株式会社 鍛冶田工務店



各階平面図



写真右 3点) 小泉川に面する「小川のテラス」とユニット間の「談話コーナー」。ユニット同士・施設全体の交流の場として設けられている。談話コーナーに面するユニット玄関には、それぞれのユニット独特のしつらえが施される。



ユニット名は、日本の伝統的衣装である十二単の色の組み合わせ「重ね色目」から選んだもの。表札にはその色がポイントに使われている。
玄関には木製格子戸や、勝手口との境に板張りの腰壁が設置され、玄関としてのしつらえが施されている。



ユニット内共同生活室(リビング) 入居者の方が、お茶を飲んだりテレビを見たり食事をされる場所。家具のレイアウトにあわせて、照明器具の位置を変えられるようにレールやフックを取り付けている。障子や壁の凹凸などで、落ち着ける生活空間単位を構成できるように計画された。



ユニットの居室までの通路は、長い廊下と感じにくいよう凹凸をつけたり、壁格子を設置。各居室に入り口らしい雰囲気を持たせた。廊下の中程には、通風・採光を兼ねた吹き抜けが設けられている。



小ぶりにつくられたユニットの浴室。高野慎の浴槽がオーダーで設置された。



実物での寸法検証を行った。



建物に生活の灯がともされる。

特別養護老人ホーム 第二天神の杜

ユニット内共同生活室(茶の間) 畳の下に組み立て式架台を収納している。入居者の身体能力に合わせて、スタッフにより畳スペースの床の高さを変えることができる。



建物完成間近、操作性、安全性を確認した検討会の様子。



ユニット内居室は、車いす入居者も使える洗面化粧台とトイレを設置している。入居者がこれまで使っていた日用品や家具を持ち込めるように、吊押しが設けられておりその下部には、車いすや収納家具が置けるようになっている。和室仕様の居室も設けられた。



冬はこたつ仕様に。

